

## 当社投資家向けIRサイトが 新しく生まれ変わりました!

デザインの刷新、情報の充実を図るとともに、当社の強みや今後の事業展開などをわかりやすく紹介する「個人投資家の皆様へ」コンテンツを新設し、株主、投資家の皆様に当社へのご理解をより一層深めていただけるサイトへとリニューアルいたしました。

今後も継続的に内容の充実を図り、タイムリーな情報の提供に努めてまいります。ぜひ一度、ご覧ください。



<http://www.waseda-ac.co.jp/ir/>

早稲田アカデミー

検索

### 株主メモ

事業年度 … 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 … 毎年6月

同総会議決権行使株主確定基準日 … 毎年3月31日

期末配当受領株主確定日 … 毎年3月31日

中間配当受領株主確定日 … 毎年9月30日

(中間配当は、取締役会にて決議された場合に限りお支払いいたします)

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 … 三菱UFJ信託銀行株式会社

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

同連絡先  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)

公告掲載URL … 当社の公告は、電子公告により行います。http://www.waseda-ac.co.jp/ir/  
事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

単元株式数 … 100株

上場金融商品取引所 … 東京証券取引所 市場第一部 (証券コード: 4718)

### 株式会社 早稲田アカデミー

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-53-7

ホームページ <http://www.waseda-ac.co.jp/ir/>



株式会社早稲田アカデミーは  
プライバシーマークの使用資格を取得しています。

私たちは株主・投資家、顧客の皆様からお預りした個人情報に関して適正な管理・運用を行って参ります。  
プライバシーマーク制度…個人情報に関する適正な管理・運用を行っている企業に対して、経済産業省の外郭団体「一般財団法人日本情報経済社会推進協会」より付与される制度です。

#### 株主の皆様へ アンケートのお願い

当第2四半期のBusiness Reportをご覧ください誠にありがとうございました。株主の皆様方のご意見を今後のIR活動の参考にさせていただきたく、同封のアンケートにぜひご協力いただけますようお願い申し上げます。

差出有効期間内にご回答いただいた方の中から抽選で粗品(500円相当)をお送りさせていただきます。(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。)

# Interim Business Report 2014



## 特集

早稲田アカデミー IBS

Integrated Bilingual School

～未来に繋がる英語能力の

開発を目指して～

早稲田アカデミーイメージキャラクター  
伊藤萌々香 (Fairies)



## ごあいさつ

### 経営理念

目標に向かって真剣に取り組む

人間の創造

### 教育理念

本気でやる子を育てる

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におきましては、収益の基礎となる塾生数を小・中・高の全学部で伸長させることができた結果、売上高は前年同期比2.5%増と堅調に推移いたしました。

他方、中長期の校舎展開を見据えて育成人員を増加させた他、営業力強化と校舎支援体制の充実を図るため、新部署（人事部・広告宣伝部）を設置し、本社主導で行う各種集客イベントに注力するなどの施策を行ったことにより、利益面では前年同期を下回りました。しかしながら、通期におきましては、これらの施策や“品質向上”に向けたの全社を挙げた取り組みの成果により、増収増益を達成できるものと考えております。

現在、様々な分野において国際競争力の強化が求められる中で、グローバル人材の育成に資する英語教育の在り方が、議論・検討されています。そのような動きの中、当社におきましては、昨春「早稲田アカデミーIBS」を開設し、受験英語に留まらない「生きた言語としての英語」を身につけるための、従来とは全く手法の異なる新しい英語教育の開発に取り組んでおります。

今後も当社グループは、「本気でやる子を育てる」という教育理念のもと、合格実績の更なる伸長に注力し、「難関校に行くなら早稲田アカデミー」という圧倒的なブランド力の構築を目指すとともに、変わりゆく顧客ニーズに対応した新規事業にも積極的に取り組み、業容の拡大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年11月



代表取締役社長 瀧本 司

# 営業の概況

## 当第2四半期の経営成績

当第2四半期連結累計期間の国内経済は、穏やかな景気回復基調で推移したものの、不安定な世界経済への懸念から、先行きは不透明な状況が続きました。

学習塾業界におきましては、このような経済情勢に加え、少子化の進行により市場規模が縮小するという厳しい経営環境が続く中で、新商品開発や新たな事業領域の開拓が積極的に行われております。

このような経営環境の中、当社グループにおきましては、引き続き、高品質の授業を提供することに加え、家庭学習支援・進学情報提供等、サービス全般の“品質向上”に取り組んでまいりました。

また、当第2四半期連結会計期間におきましては、収益に大きく寄与する夏期講習会及び夏期合宿の受講生獲得に注力いたしました。

新商品開発につきましては、昨春開設した英語講座「早稲田アカデミーIBS (Integrated Bilingual School)」において、初年度から実用英語技能検定試験で目覚ましい合格実績を輩出し、高い評価をいただいていることから、新たに高校生対象の「東大受験生のためのハーバード併願コース」を新設いたしました。更に、「早稲田アカデミーIBS」のノウハウを汎用化し、「発話力」育成を中心に英語の4技能（読む、聞く、書く、話す）を身に付け、2年間で実用英語技能検定試験準2級合格を目指す、小5・小6対象の新規英語講座「Dual Express ENGLISH」の開発に取り組み、2014年2月の本格展開に向け、9月に荻窪校で先行開講いたしました。

費用面では、今期以降の出校ペース加速に備えた育成人員の増加、及び校舎支援強化のために本年4月に新部署（人事部、広告宣伝部）を設置したことに伴う労務費の増加、新校及び既存校の増床による地代家賃の増加、集客のための先行投資である販売促進費の増加等により、当第2四半期連結累計期間における売上原価率・販管費比率は、ともに前年同期と比べて上昇いたしました。

株式会社野田学園におきましては、生徒一人一人の学力に応じた少人数制のきめ細かい指導による顧客満足度の向上と、合格実績伸長に向け教材等のメンテナンスに注力いたしました。収益面では、期中平均塾生数が前年同期比22.6%増となったことに伴い、売上・利益ともに前年同期を上回り、順調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,119百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益329百万円（前年同期比28.4%減）、経常利益327百万円（前年同期比28.5%減）、四半期純利益175百万円（前年同期比31.4%減）となりました。



夏期合宿開校式の様子

## 【教育関連事業】

当事業におきましては、合格実績伸長と安定的な収益拡大を図るため、各学部とも低学年集客を全社的な重点課題と位置づけ、継続的に注力してまいりました。

校舎展開につきましては、千葉県内でのドミナント強化に向けて、東葉高速線沿線の市場開拓を図るため、“早稲田アカデミー”ブランド校舎「八千代緑が丘校」を7月に開校し、順調に新入生を迎えております。

収益の基礎となる期中平均塾生数につきましては、小学部13,046人（前年同期比0.5%増）、中学部13,038人（前年同期比3.5%増）、高校部3,044人（前年同期比2.0%増）、合計では29,128人（前年同期比1.9%増）となりました。

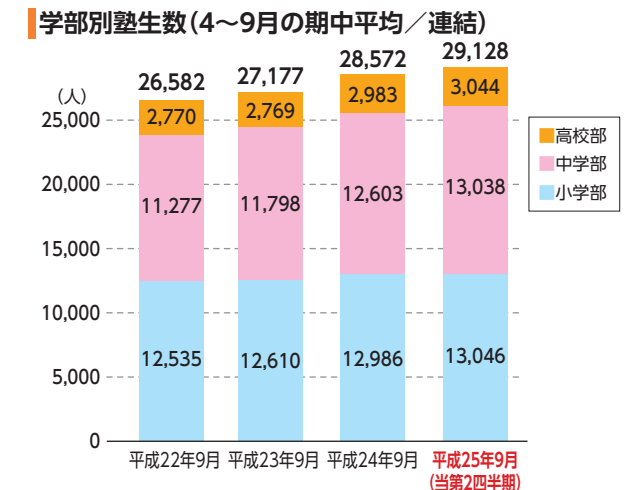
以上の結果、教育関連事業の売上高は9,089百万円（前年同期比2.5%増）、セグメント利益1,381百万円（前年同期比6.5%減）となりました。

## 【不動産賃貸】

当事業におきましては、引き続き、新規賃貸先の獲得に努めたものの、物件稼働率の向上には至らず、売上高は58百万円（前年同期比6.2%減）、セグメント利益12百万円（前年同期比11.5%増）となりました。



7月に開校した「八千代緑が丘校」



# 特集

## 早稲田アカデミー IBS

～未来に繋がる英語能力の開発を目指して～

Integrated Bilingual School

今、日本の英語教育が大きく変わろうとしています。

子供たちに「入試で合格する英語」ではなく、「言語としての英語」を身につけさせようと、教育の現場だけではなく、政府、自治体、産業界、等でも活発な議論が繰り広げられています。また実社会においても、「グローバル人材の育成」と、様々な分野における「国際競争力の向上」が求められており、英語が必要になる機会は今後、益々増えていくでしょう。しかし活発な議論の一方で、子供たちにどのような英語教育を受けさせればいいのか、迷われている保護者の方々も多いのではないのでしょうか。そのような中、私たち、民間教育機関にできることは何か。今回は、株主の皆様にも、早稲田アカデミーの英語教育への取り組みをご紹介します。



### IBS始動

平成24年4月、グローバル人材の育成を目指し、“受験英語”に留まらない、それを超える新たな英語教育を提供する講座として小学校低学年向けの講座を立ち上げました。それが「早稲田アカデミーIBS」です。到達目標を掲げることの少なかった英語教育の場において、IBSでは“小学4年修了までに英検2級合格”という明確な到達目標を掲げ、日本語を介在させない授業により、“読めて、聴けて、表現できる”英語力の開発に取り組んできました。開講後、まだ1年半ですが、平成24年度の実用英語技能検定試験においては右記のとおり、目覚ましい成果を上げています。

平成24年度 実用英語技能検定試験結果

大学中級レベル 準1級 <b>1名</b> <small>小1が合格</small>	高校修了レベル 2級 <b>9名</b> <small>小2～合格</small>
高校中級レベル 準2級 <b>11名</b> <small>小2～合格</small>	中学卒業レベル 3級 <b>14名</b> <small>年長～合格</small>
中学2年修了レベル 4級 <b>20名</b> <small>年長～合格</small>	中学1年修了レベル 5級 <b>48名</b> <small>年長～合格</small>

### IBSの魅力

IBSでは、バイリンガル講師が日本語を一切使用せず授業を進めていきます。言語としての英語学習、IBSが目指す英語脳の開発においては、「日本語」や「英和辞典」は必要としません。英語学習に、日本語を介在させる必要がないからです。

そしてもう一つのIBSの特徴として“多読”があります。これは、子供たちの英語力にあった様々なレベル、ジャンルの洋書を大量に読むことにより、言語としての英語力を養うものです。一般的に公立中学に通う中学生が読む英語量は、年間8,000語と言われていますが、IBSに通う小学校低学年生は、“多読”により実に年間1,000,000語もの英語に触れていきます。

IBSの指導責任者は言います。

「英語は世界で最もよく使われている言語で、またとても細やかな言語です。

私たちは、子供たちに、英語を通して“心を震えさせる”体験をしてほしいと考えています。しかし私たち日本人が今までしてきたように、英語を日本語に訳すと、途端につまらなくなってしまうのです。言語としての英語の力を養うには、英語の世界にダイレクトに飛び込むしかありません。そして英語が日常的に使われない日本において、その感受性を養っていくためには読

書が必要なのです。読書によって、英語の力（読む、聞く、書く、話す）を高め、英語という言葉の細やかさ、表現の豊かさを英語の感覚で掴み、理解していけるように、私たちは導いていきます。

“apple⇒りんご”のように、これまでの日本の英語教育では、英語を日本語に変換する学習が行われてきたこともあり、子供たちの中には、小学校低学年であっても、既に英語を日本語に変換することを覚えてしまっているお子様もいらっしゃるものです。私たちはそんなお子様に根気良く向き合い、「日本語変換」学習を手放しても大丈夫なことを教えていきます。そうすることでお子様は、IBSでの学習を通じて、今まで使ってきた「日本語変換」の回路を使わなくても、英語が理解できていることに気付いていくのです。ここまでくれば、英語の世界で英語を習得していくことがどんどんできるようになるのです。」

ダイレクトに英語の世界に飛び込み、英語で知識が増えていく喜び、そして英語の本当の意味を理解する好循環を作れること、これがIBSの魅力です。

### 心が震える英語学習を多くの子供たちへ

小学校低学年向けの英語講座「早稲田アカデミーIBS」は、僅か1年半で大きな成果を上げることができましたが、現在、東京都内に1箇所開設しているのみで、ほとんどのクラスで満席、キャンセル待ちをしていただいている状況です。

そのため、この「早稲田アカデミーIBS」のノウハウを汎用化して、小学5・6年生を対象に新たに開講するのが、新規英語講座「Dual Express ENGLISH」です。

来年2月には7校で開講予定であり、その後も順次拡大していく予定です。

「Dual Express ENGLISH」の授業は、教室で指導する講師が、バイリンガル講師の映像を解説する形で進めていきますが、バイリンガル講師は映像の中で日本語を一切使わず英語の表現を英語で説明していきます。教室で指導する講師も、バイリンガル講師の説明を日本語に訳すのではなく、その説明内容を日本語で解説するのみです。そして子供たちは、そのイメージを持って、英語で教わった表現を映像やテキストにあわせて発声していきます。

「早稲田アカデミーIBS」同様、「日本語変換型の英語学習」ではなく、「英語脳を育てる英語学習」として、一人でも多くの子供たちに、英語を通して心が震える体験をしてもらい、グローバル人材の育成に貢献していきたいと考えております。

今後とも、早稲田アカデミーの英語教育にぜひご注目ください。



バイリンガル講師による、英語での授業風景



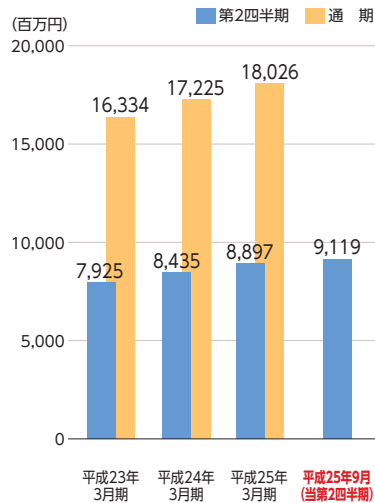
国内最大級の児童洋書図書館  
“早稲田アカデミー・イングリッシュ・ライブラリー”



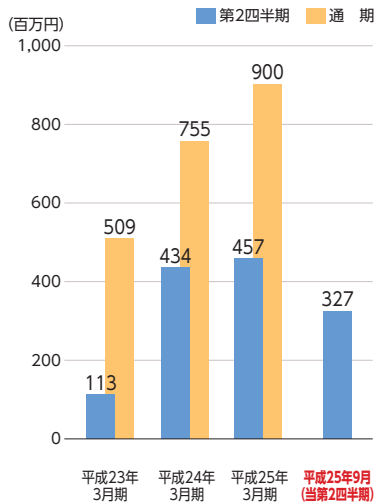
当社バイリンガル講師による授業映像

# 財務ハイライト（連結）

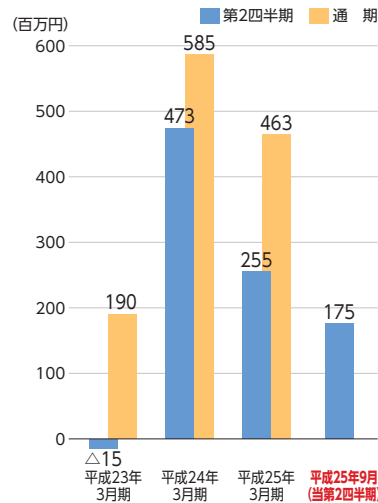
## 売上高



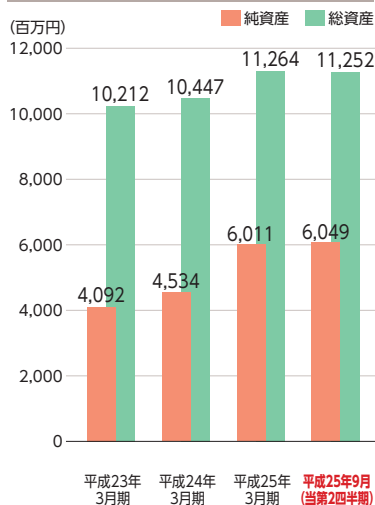
## 経常利益



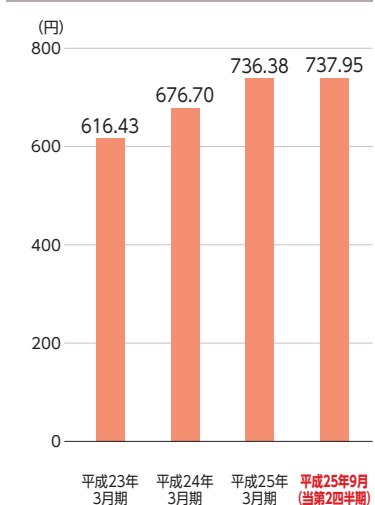
## 四半期(当期)純利益(損失)



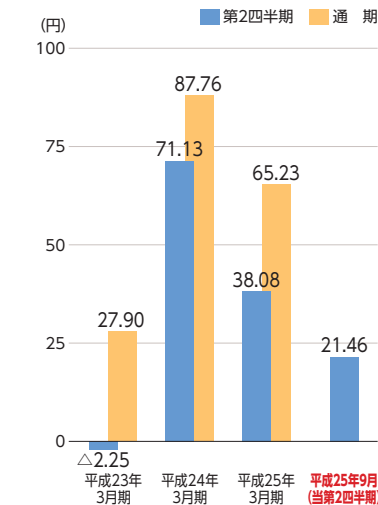
## 純資産・総資産



## 1株当たり純資産額



## 1株当たり四半期(当期)純利益(損失)



# 連結財務諸表

## 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円、単位未満切捨)

科 目	当第2四半期末 (平成25年9月30日)	前会計年度末 (平成25年3月31日)
<b>資 産 の 部</b>		
流動資産	3,397,032	3,359,809
現金及び預金	1,644,038	1,851,980
営業未収金	1,234,727	925,342
たな卸資産	50,011	55,064
その他	496,211	554,506
貸倒引当金	△27,955	△27,084
固定資産	7,848,800	7,894,652
有形固定資産	4,091,616	4,170,377
無形固定資産	803,517	830,837
投資その他の資産	2,953,667	2,893,437
繰延資産	6,822	9,799
<b>資産合計</b>	<b>11,252,656</b>	<b>11,264,261</b>

科 目	当第2四半期末 (平成25年9月30日)	前会計年度末 (平成25年3月31日)
<b>負 債 の 部</b>		
流動負債	3,555,698	3,399,366
短期借入金	50,000	100,000
1年内償還予定の社債	280,000	280,000
1年内返済予定の長期借入金	162,000	162,000
未払法人税等	129,188	322,465
その他	2,934,509	2,534,900
固定負債	1,647,670	1,853,491
長期借入金	427,000	508,000
退職給付引当金	523,682	493,640
その他	696,987	851,851
<b>負債合計</b>	<b>5,203,368</b>	<b>5,252,857</b>
<b>純 資 産 の 部</b>		
株主資本	5,871,210	5,846,423
資本金	968,749	968,749
資本剰余金	917,698	917,698
利益剰余金	4,083,029	4,082,527
自己株式	△98,267	△122,552
その他の包括利益累計額	178,078	164,979
<b>純資産合計</b>	<b>6,049,288</b>	<b>6,011,403</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>11,252,656</b>	<b>11,264,261</b>

# 連結財務諸表

## 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：千円、単位未満切捨)

科 目	当第2四半期累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
売上高	9,119,253
売上原価	6,921,411
売上総利益	2,197,842
販売費及び一般管理費	1,867,995
営業利益	329,847
営業外収益	25,048
営業外費用	27,737
経常利益	327,158
特別利益	-
特別損失	1,725
税金等調整前四半期純利益	325,432
法人税・住民税及び事業税	104,721
法人税等調整額	45,177
少数株主損益調整前四半期純利益	175,534
四半期純利益	175,534
その他の包括利益	13,098
四半期包括利益	188,632

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円、単位未満切捨)

科 目	当第2四半期累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	540,747
投資活動によるキャッシュ・フロー	151,224
財務活動によるキャッシュ・フロー	△505,696
現金及び現金同等物の増加額	186,275
現金及び現金同等物の期首残高	919,174
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,105,450

### POINT

#### <貸借対照表>

- 当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率：53.8%  
(前連結会計年度末53.4%/0.4%上昇)
- 有利子負債総額：1,366百万円  
(前連結会計年度末比▲304百万円/18.2%減少)

#### <損益計算書>

- 期中平均塾生数：29,128人(前年同期28,572人/1.9%増加)
  - 売上原価：前年同期比254百万円(3.8%)増 構成比率75.9%
  - 販売管理費：前年同期比97百万円(5.5%)増 構成比率20.5%
- ※費用増加の主な要因  
 育成人員増加及び新部署設置による労務費の増加  
 新規出校並びに既存校の増床に伴う地代家賃の増加  
 集客イベントの充実等に伴う販売促進費の増加等
- 1株当たり四半期純利益：21.46円

# 株式の概況・会社概要 (平成25年9月30日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数 30,000,000株  
 発行済株式総数 8,334,976株  
 株主数 3,134名

## 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ナガセ	1,278	15.34
須野田 珠美	856	10.27
英進館株式会社	855	10.25
福山産業株式会社	582	6.98
株式会社明光ネットワークジャパン	416	4.99
早稲田アカデミー従業員持株会	314	3.76
株式会社学研ホールディングス	263	3.15
中国開発株式会社	236	2.83
有限会社平井興産	201	2.42
教育開発出版株式会社	157	1.89

※上記大株主の状況につきましては、株主名簿管理人からの株主名簿に基づき記載しております。

## 会社概要

商 号：株式会社早稲田アカデミー  
 本店所在地：〒171-0014  
 東京都豊島区池袋2-53-7  
 TEL 03-3590-4011(大代表)

資本金：968百万円  
 従業員数：798名(正社員)  
 事業内容：小学生・中学生・高校生を対象とする  
 進学塾の経営等

役員：代表取締役社長 瀧本 司  
 専務取締役 古田 信也  
 常務取締役 河野 陽子  
 取締役 山本 豊  
 取締役 坪井 慎一  
 取締役(社外) 三宅 紀行  
 常勤監査役(社外) 山口 芳郎  
 常勤監査役 遠藤 忠雄  
 監査役(社外) 小山 剛史  
 監査役(社外) 原口 昌之

※当社は取締役 三宅紀行氏、常勤監査役 山口芳郎氏、監査役 小山剛史氏及び監査役 原口昌之氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## 関係会社

・株式会社野田学園

## ●中間配当実施のお知らせ

当第2四半期において、株主の皆様のご支援にお応えすべく、1株あたり10円の間配当を実施いたします。詳細は、同封の書類にてご確認ください。